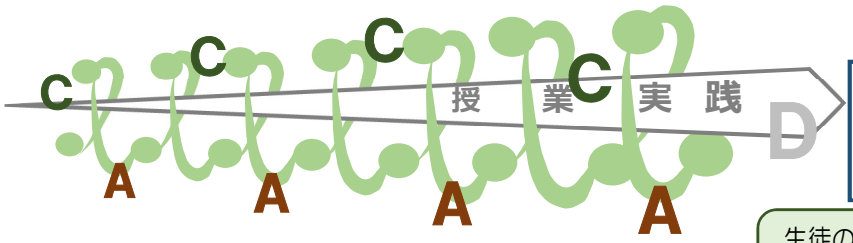
社会

P 指導計画
終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

生徒の
つぶやきや
様相から Check！

□ **Check**
・社会的事象から疑問や矛盾を見いだしていたか

「～のはずなのになんで…。」
「どのように～してるんだろう。」
「私たちはどうすればよいか。」

□ **Check**
・課題解決の見通しがもてていたか

「～から調べれば
分かりそうだ。」

□ **Check**
・多面的・多角的に考えていたか

「〇〇の側面からは～。」
「〇〇の立場からすると～。」

□ **Check**
・立場や根拠を明確にして考えを説明していたか

「〇〇という予想から
考えて～。」
「〇〇の資料の～から…。」

□ **Check**
・仲間の考えと自分の考えをつなごうとしていたか

「〇〇さんの考えと似ていて～。」
「〇〇さんの考えと違って～。」
「初めは～と思っていたけれど、
〇〇さんの発言を聞いて…。」

□ **Check**
・学習したことを振り返っていたか

「～が分かった。」「身の回りでも」
「今日は～から考えることができた。」
「私は～していきたい。」

□ **Check**
・社会的な見方・考え方を働かせて課題解決に向かっていたか

「〇〇という場所だから～。」
「〇〇という時代だから～。」
「〇〇と比べると～。」
「〇〇とつなげると～。」
「まとめると～。」

A 授業改善のポイント

☞社会的事象から疑問や矛盾を見いだすためには
・社会的事象と既習内容や生活経験との関連を図りながら、具体的な読み取りをさせる。
・驚きや疑問を出し合い、疑問の内容を明確化し、仲間と共有する。

☞課題解決の見通しをもつためには
・既習内容や導入の資料、生活経験が予想の根拠になることを指導し、根拠ある予想がもてるようにする。その際、予想を交流する場を位置付けるなど、一人一人が予想をもてるようにする。
・追究の視点や課題解決に必要な情報を明らかにする。

☞社会的な見方・考え方を働かせて事象をとらえるためには
・生徒が空間、時間、相互関係などの視点に着目して社会的事象を捉えられるように「問い」や「資料」を工夫する。
・比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりして考えるように促す。

☞立場や根拠を明確にして考えを説明するためには
・どの資料のどの部分から考えたのか、また、どの立場から考えたのかが曖昧な場合は問い返していく。

☞仲間の考えと自分の考えをつなぐためには
・自分の考えと仲間の考えとの共通点や差異点を明確にして聞くことを指導し、反応する力を育てる。
・生徒同士のやりとりを促す教師の働きかけを行う。
・「わかりました」「なるほど」などの反応でよしとするのではなく、「本当にわかっているのか」、「どこになるほどと思ったのか」を問い返し、確かめていく。

☞多面的・多角的に考えるためには
・取り上げる社会的事象にどんな側面があるのかを分析し、多面性を捉え、どんな角度（立場）から生徒に捉えさせるのか明らかにする。
・根拠となる資料の情報が客観的な情報であるかを吟味して提示資料を考える。
・「既習内容と」「他の資料からわかる事実と」「仲間の考えと」「自分の生活と」等比較したり関連付けたりしている姿を価値付ける。
・構造的な板書によって、視覚的に分類を捉えさせたり、総合的に捉えさせたりしていく。

☞学習したことを振り返るためには
・一単位時間や単元全体を振り返って、自分の学びや変容に気付かせ、次の学びにつなげていくようにする。

ここに示したものは、あくまでも一例です。
周りの仲間の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。